

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2000年(平成12年)7月5日 No. 1163

目次

岐路にたつロシアの電力分野②	坂口 泉 1
統計速報 2000年1～3月ロシアの主要商品輸出入高	7
C I S 諸国通貨の最新為替レート	10

岐路にたつロシアの電力分野②

—その概要と直面する焦眉の問題—

はじめに 前回に引き続き、ロシアの電力分野の現状をご紹介します。

(5) 電力インフラ(発電設備)の現状

1) 老朽化の進行

第7表からもわかるとおり、投資不足のため、新規に導入される発電設備の量は減少の一途をたどっている。一方、新規導入される発電設備が少ないため(あるいは閉鎖のために必要な資金が不足しているため)、老朽化し本来なら閉鎖することが望ましい設備を無理をしても使用し続けるというケースが増加しており、閉鎖される発電設備の量も少ない。その結果、定格出力に占める老朽化設備の割合が年々増加している(第8表参照)。

ちなみに、ある説によれば、ロシアの現状を勘案すれば、年間約700万～800万kWの発電設備を新規導入し、同じ分を閉鎖する必要があるといわれている。この説が本当だとすれば、現在の設備刷新テンポは、理想的な水準の10分の1程度ということになる。

2) メンテナンス不足による影響

定格出力に占める老朽化した設備の割合が増加しているということは、その分、メンテナンス費用がかかるということの意味するが、資金不足のため、消耗の激しいユニットや部品